

水分補給サービスによる皇居周辺の景観の改善

ピローズ：早川健輔・市村しおり・大井葉月・岡本悠太

2007年の第1回東京マラソン開催や2011年の東日本大震災をきっかけに、体力増進を目的としてジョギング・ランニングを習慣とする人が増えている。2012年にはジョギング・ランニング人口が過去最高の1,009万人になり、ジョギングやランニングがブームとなっている。そんな中、最近注目されているのが、皇居周辺を走る「皇居ラン」である。皇居周辺は、都内の観光名所を見ながら走れるだけでなく、ランナーにとって走りやすい環境が整っている。また、2011年には、観光庁が皇居周辺を「走って気持ちがいい道」第1号に認定するなど、人気のジョギング・ランニングスポットになっている。しかし、皇居ラン人口が増えたことにより、皇居周辺ではランナーの荷物放置、とりわけペットボトル飲料の放置が多く見られるようになった。公道や公園にペットボトル飲料を置いたままジョギング・ランニングをするランナーがいることで、ポイ捨てが誘発されており、周辺の景観が悪くなっている。千代田区役所も景観悪化やマナー違反について問題視している。そこで観光客も多く訪れる皇居周辺の景観を良くするために、ペットボトルの放置やポイ捨ての問題を解決する。

【水分補給プロジェクト概要】

- ターゲット：皇居ランナー
- 場所：待ち合わせ・休憩場所イベント開催場所として多く利用する桜田門前広場
- 方法：リユース容器を利用した皇居ランナー向けの水分補給サービス
- 時間：平日17時～22時／休日9時～17時 のランナーが集中する時間帯

皇居ランナーにおこなったインタビューでは、「皇居周辺に荷物を置く場所が少ない」「近くに飲料を買うところがない」といった声が多く挙げられた。さらに「自動販売機やコンビニエンスストアが遠い」というような立地の悪さも挙げられた。そこで私たちは飲料と容器を手配し提供する。皇居ランナーが出発地点や休憩場所として多く利用する場所で、効果的に放置やポイ捨てを減らすことができると考えたためである。

水分提供の他にも千代田区が策定した利用マナーを周知することが景観の保全に結びつくため周知活動を行う。

水分補給プロジェクトにより、ランナーの不満を解決するだけでなく、千代田区の悩みも解決することができる。その結果、皇居ランナーが使っているペットボトルの消費を減らすことができる。皇居周辺でペットボトル消費が減ることにより、ペットボトルの放置やポイ捨てが減少し、景観が良くなることが予想される。